

事業概要

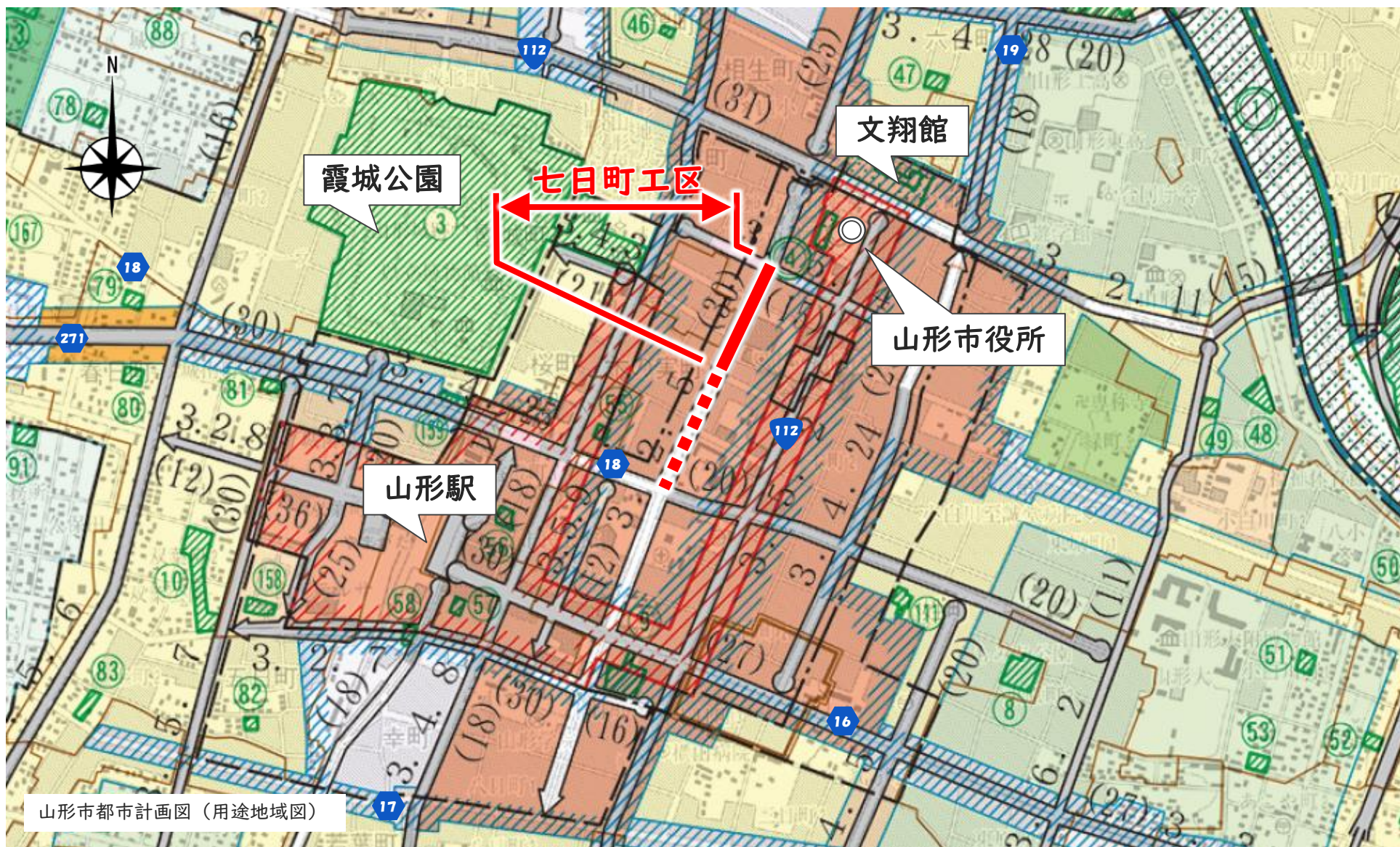
(山形県：(都) 旅籠町八日町線)

応募No.	3		
事業主体	山形県	事業箇所	山形県 山形市 七日町 地内
応募者名	山形県 村山総合支庁 建設部 都市計画課		
ふりがな 事業名称	やまがたこういきとしけいかくどうろじぎょう 3・2・5ごう はたごまちようかまちせん なぬかまちこうく 山形広域都市計画道路事業 3・2・5号 旅籠町八日町線(七日町工区)		
事業概要 (400字以内)	<p>本路線は、山形市都市計画マスタープランにおける都心リング及び駅環状道路に位置づけられ、中心市街地の都市機能を拡充する重要な都市計画道路である。</p> <p>現道は、救命救急医療機関を備えた山形市立病院(済生館)が隣接しているが、幅員10m程度の「2車線一方通行」となっており、歩道も1m程度の狭小となっている。</p> <p>本事業では、「2車線一方通行」を「4車線(2車線対面)」に拡幅し、通行規制の解除や渋滞の解消を目的とするほか、歩道の拡幅と消雪化による安全・安心な歩行空間の整備、無電柱化による減災や緊急輸送道路の交通確保、さらには、景観に配慮した空間整備を行うため「栄町大通り街づくり委員会」と協同で事業を実施したものである。</p> <p>なお、当該区間は、「山形城三の丸跡」の包蔵地に位置するため、事前に文化財保護法に基づく発掘調査を行っている。調査では、三の丸堀の規模が明らかになり、建物跡や陶磁器等の道具類が多数見つかっている。</p>		
事業規模	事業延長(km)	0.3km (279.3m)	
	幅員(m)	30.0m	
	事業期間(和暦)	平成22年～令和2年	
	事業費(億円)	35億円 (34.7億円)	
受賞歴	有・ 無		
URL	(なし)		

事業位置図

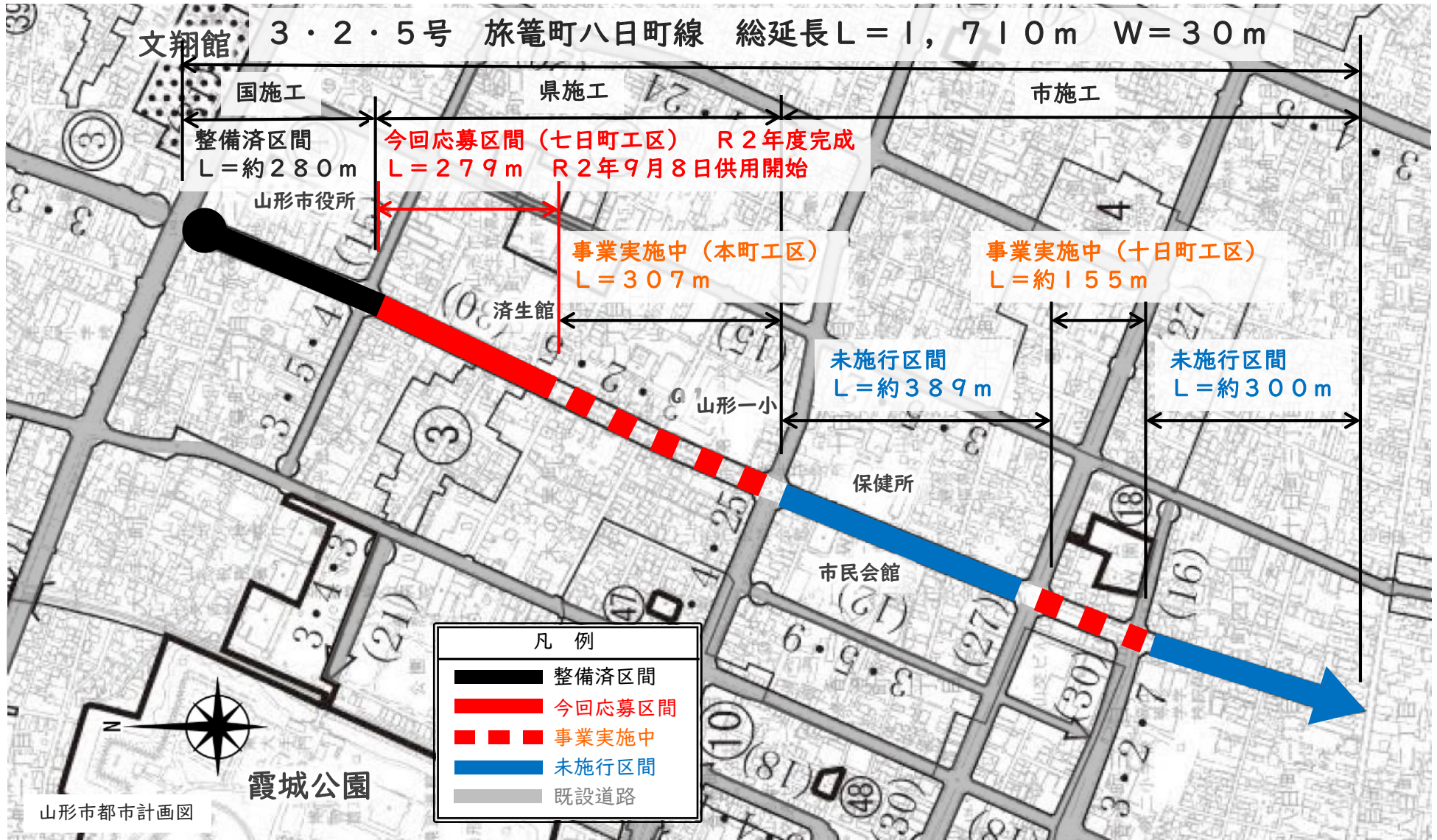


都市計画図(用途地域図)

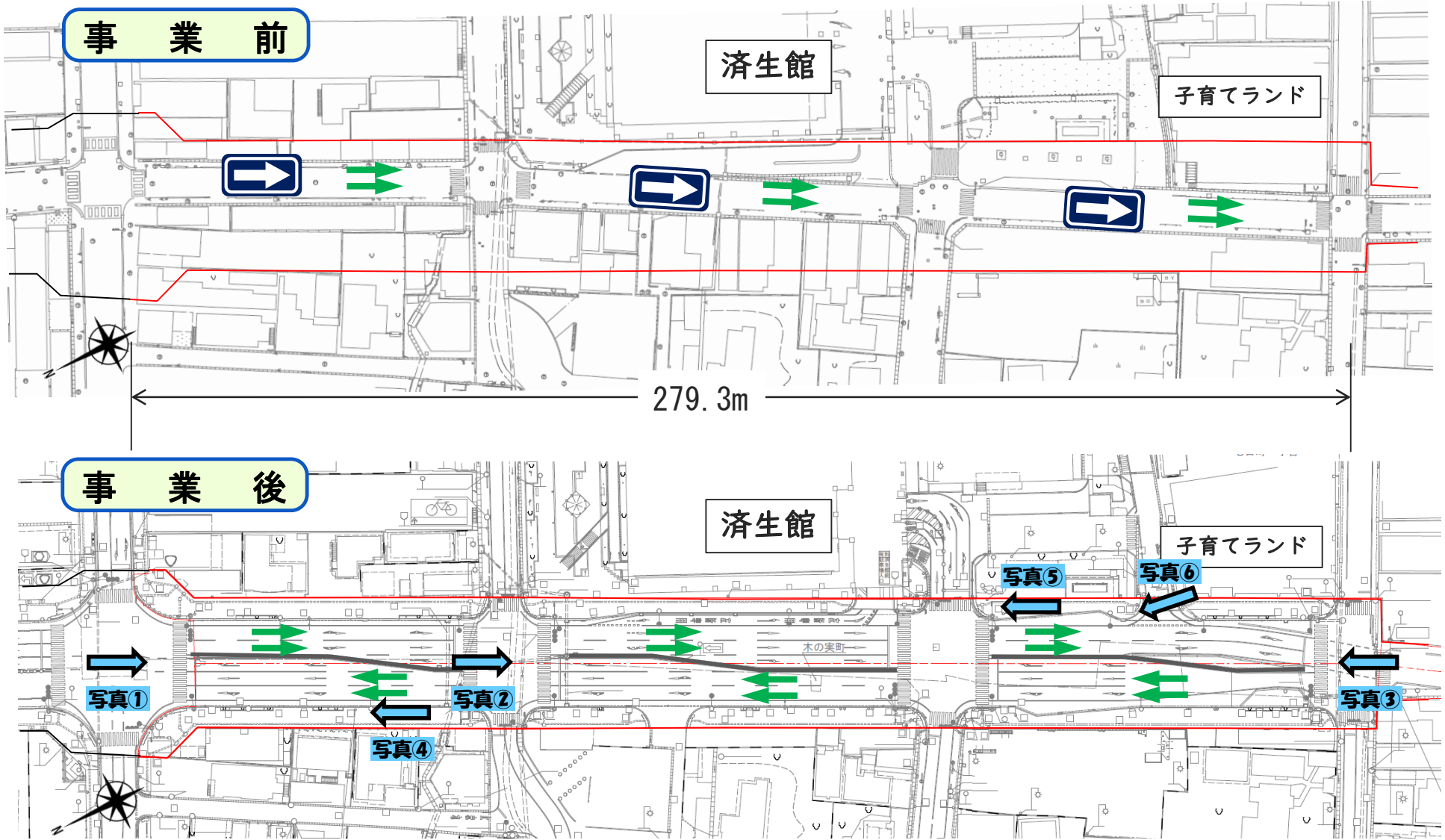


山形市都市計画図(用途地域図)

路線全体の進捗状況

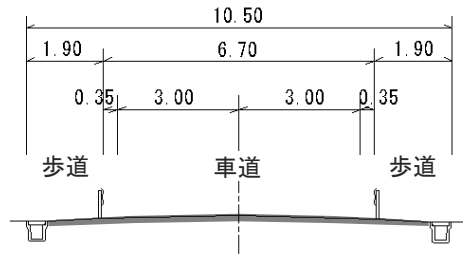


平面図

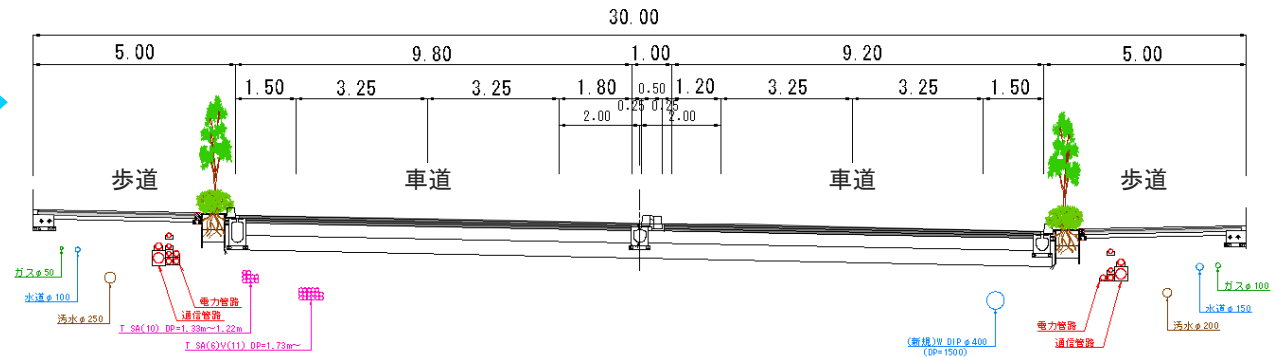


横断図

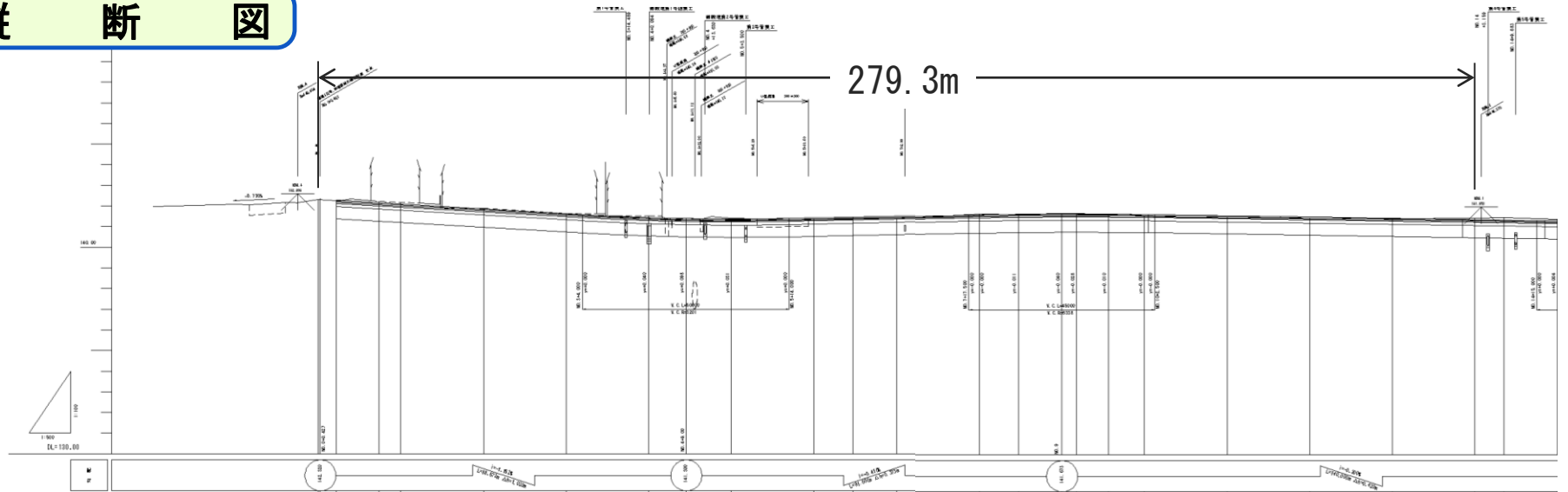
事業前



事業後



縦断図



事業前写真



事業後写真

(山形県：(都) 旅籠町八日町線)



起点から

中間

終点から

事業前写真



事業後写真

(山形県：(都) 旅籠町八日町線)



歩道拡幅



無散水消雪



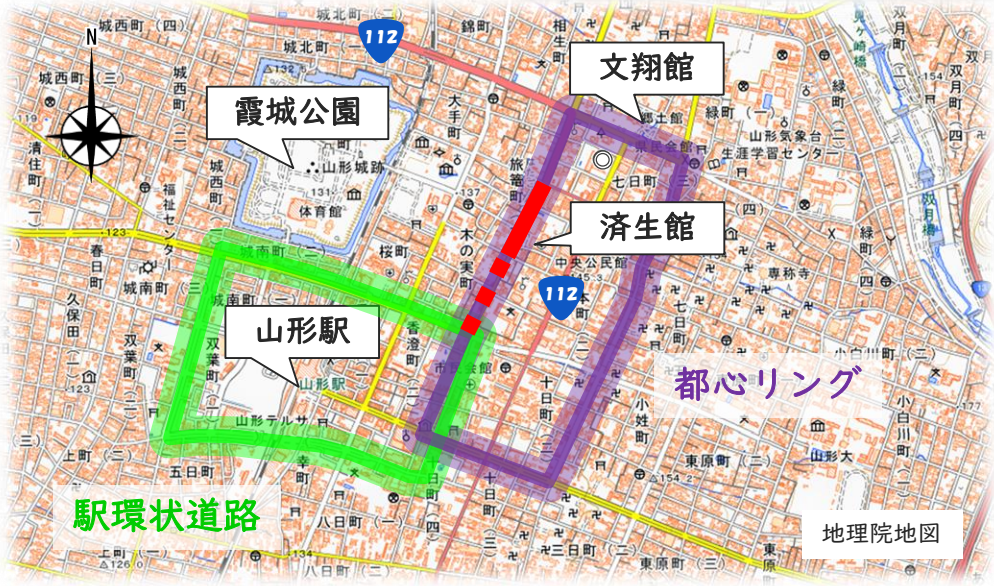
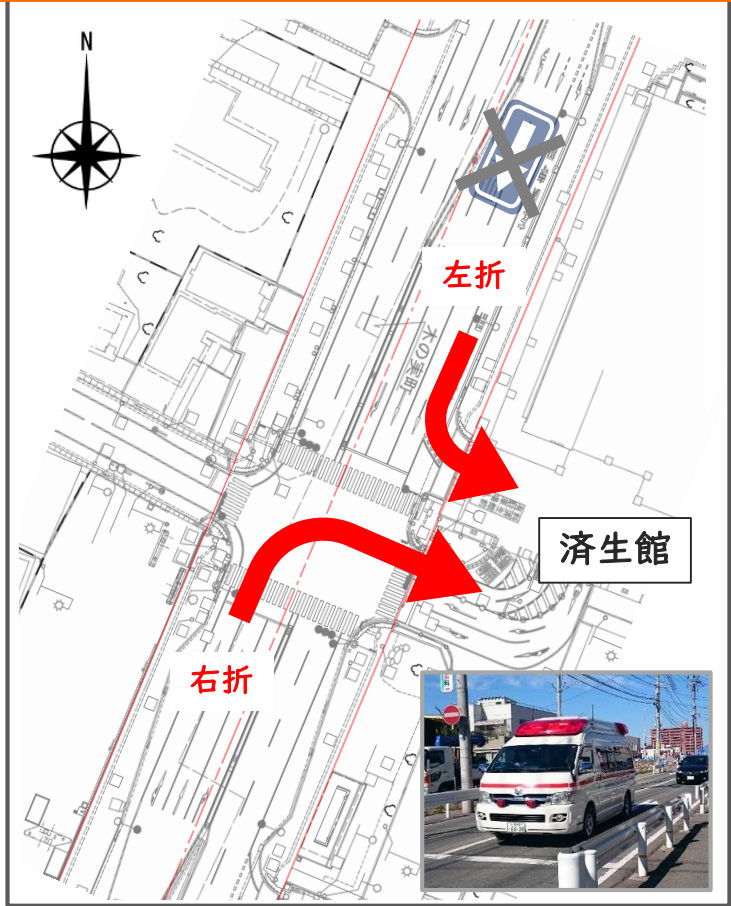
無電柱化

事業効果アピール資料

交通網の強化

4車線に拡幅し、渋滞の緩和を図った。

「一方通行」の規制解除により、緊急車両が両方向からの侵入が可能となった。



事業効果アピール資料

文化財の保護

歴史的な文化遺産の建物が
多く存在し、地域の特色と
して活かされている。

やまがたクリエイティブセンター
Q I 昭和初期の技術の粋
を集めた学び舎
(旧一小)

国登録有形文化財

埋蔵文化財発掘調査



工事箇所が「山形城三の丸跡」にあるため、発掘調査を実施した。



霞城公園 (山形城) 延文2年に築城 (1357)

国指定史跡 出典：山形市HP

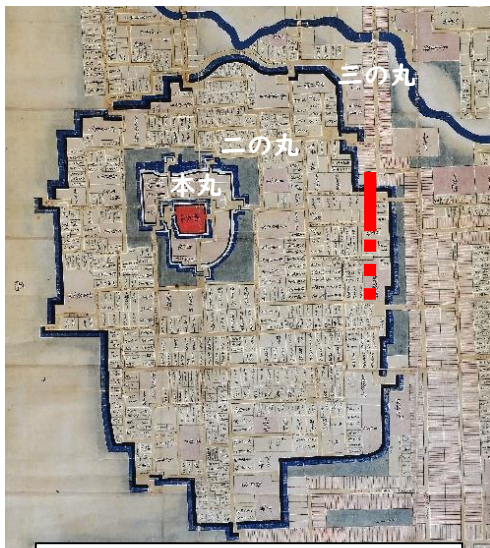


文翔館 大正ロマンの古き良き時代

国重要文化財 出典：山形県HP



山形県遺跡地図 奥野町二丁目



出典：山形県立図書館蔵 「最上家在城諸家中町割図」



発掘された遺物

事業効果アピール資料

景観の調和（街並みづくり）

栄町大通り街づくり委員会が設置され「街づくり協定」を締結した。
これを基に協同で事業を進めた。



—街づくり協定より—
歴史・文化的な景観を大事にしながら、
他所にない街並み全体として
オンリーワンになることを目指している。



ワークショップ開催状況

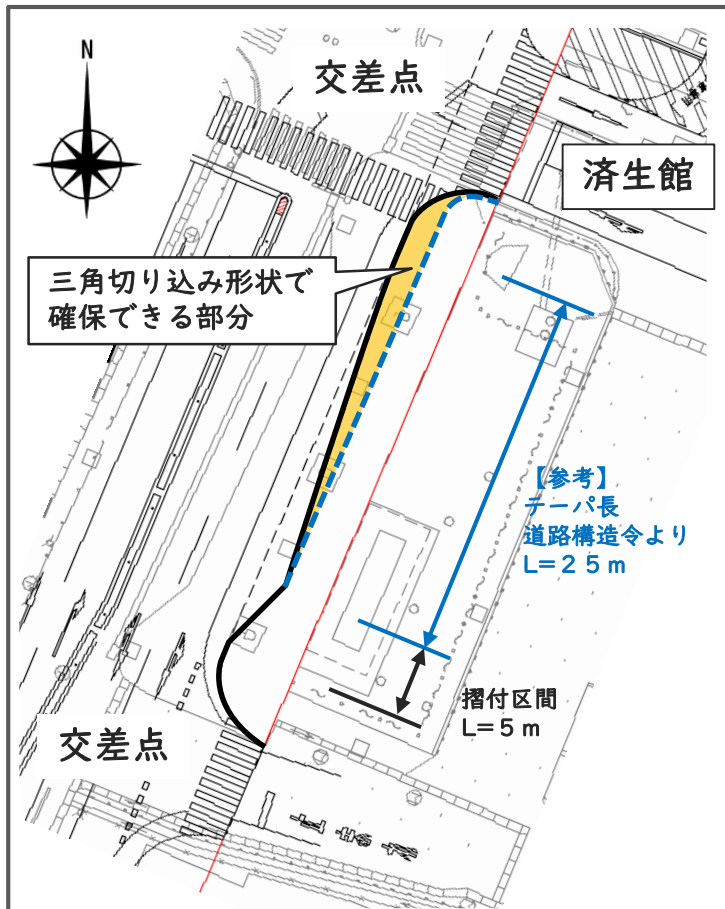


歩道自然石の選定状況

苦労や工夫等アピール資料

バス停留所の形状など

交差点の間隔が近く、規定のテーパ長（シフトに必要な長さ）を確保すると、歩道幅員が狭くなることや、横断歩道のたまり場が少なることから「三角切り込み形状」を採用した。



三角切り込み形状

バスベイにおいて切り込みの長さを長くとれない場合に、バスの停留所へ正着を容易にし、バスと歩道との距離が短くなるよう切り込みの形状を工夫したものであり、歩行空間やバス待ちの空間を広く確保できる。



バス停留所部分の歩道は、デザインを変えて分かり易いようにした。

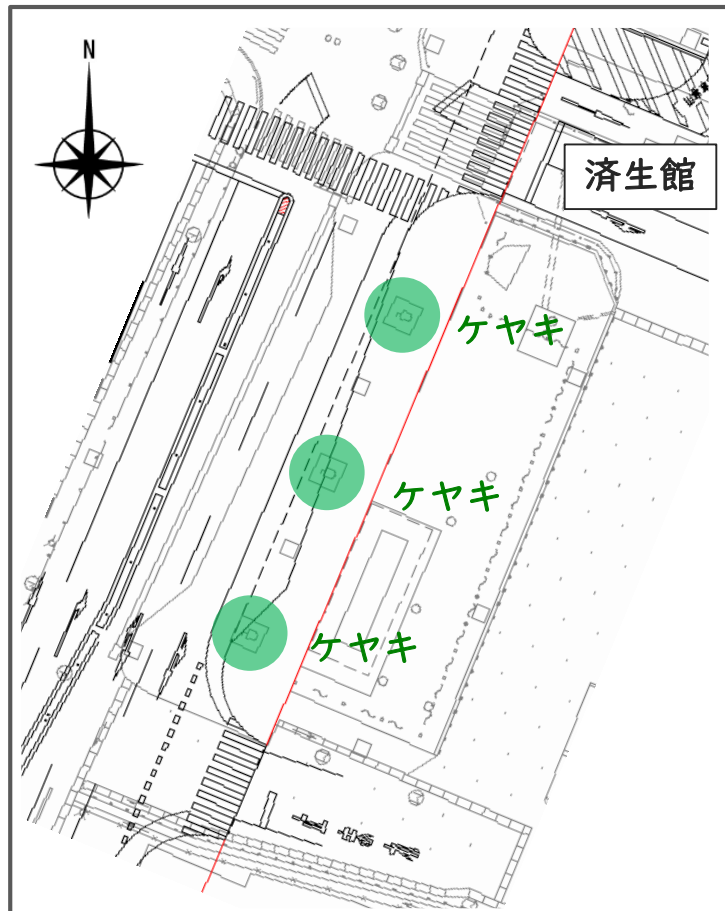


「街づくり委員会」から提示されたデザインを採用し、要望の強かった地元産「蔵王石」を使用した。

苦労や工夫等アピール資料

ケヤキの移植

歩道拡幅で支障となる「ケヤキ」について、地域の意向を踏まえ“伐採”ではなく“移植”することとした。



病院敷地内のバス停留所付近にあった3本の「ケヤキ」は、昔から地域の人々に親しまれており、当該事業で“伐採”するのではなく“移植”を希望する声があったことから、県が管理する公園内に移植することとした。公園への移植は、より多くの人々の目に触れることで、今以上に県民に親しまれ、ますます愛される木となることを期待している。



受賞歴・報道資料

H28. 6. 1 山形新聞にて掲載「整備計画」

H28. 9. 29 山形新聞にて掲載「交流拠点に」

H29. 11. 20 山形新聞にて掲載「拡幅 年内着工」

H31. 1. 15 山形新聞にて掲載「来年度完成へ」

「整備計画」から、「地域の交流拠点」「工事の着工」なども取り上げられ、地域での関心の高さが感じられる。